

所管事務調査

総務常任委員会

総務常任委員会（中野貴徳委員長、委員6人）は3月6日、議場で市防災課の中村吉雄課長を講師に「防災とダイバーシティ（多様性）の考え方」について調査を行いました。現代は、さまざまな個性を持った方々が集まって社会を構成し、その個性をお互いに認め、尊重し合うことが大切となっていることを改めて確認しました。

また、防災面では、自助・共助・公助、それぞれの役割があり、特に自助が近年重要度を増しています。例えば、介護者が必要な方、持病のある方、ペットがいる方など、さまざまな事情があり、それぞれの備えと相互の理解・助け合いの精神が必要であるとのことでした。

教育民生常任委員会

教育民生常任委員会（蒲生哲委員長、委員6人）は3月



奈良県生駒市において視察

運営施策の参考とするため、成果運動型補助金の仕組みとその取り組みについて「東近江市版ソーシャル・インパクト・ボンド」の説明を受けました。また、地域電力会社の設立までの経緯や現状と課題について、生駒市にて調査し、本市の「陸前高田しみんエネルギー（株）」との違いを確認しました。併せて生駒市長が発信する「自治体3・0」の説明を受け、市民と共に協創する取り組みを伺いました。

教育民生常任委員会

教育民生常任委員会（蒲生哲委員長、委員6人）は、1月29日から31日まで、山口県

6日、広田診療所を訪問し、所管事務調査を行いました。岩井直路診療所長等から運営状況と今後の取り組みについて説明を受けました。

はじめに、診療所内の設備（電子カルテ、血液検査の機械等の設置状況）や、新たに感染症のブースを設けていることなどの説明を受けました。診療実績において、近年の初診数が400人台で推移しており、特に薬局が近くに開設され、院外処方が可能になったことは利用者にとってのも利便性が大きく進歩したこと等の状況説明がありました。



広田診療所において所管事務調査（教育民生常任委員会）

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会（鶴浦昌也委員長、委員6人）は3月6日、広田湾漁協で養殖漁業の「残さ処理の現状と課題」について所管事務調査を行いました。

漁協では、村上修参事から「ホタテなどを出荷する際、養殖漁家は貝殻に付着した小さな貝などを取り除いた残さの処理費用が負担となつている」などの説明を受けました。残さは専門業者に引き取ってもらっているものの、それまで保管しておくストックヤードの場所確保にも苦労しているとのことでした。

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会（鶴浦昌也委員長、委員6人）は1月22日から24日まで、香川県丸亀市と岡山県玉野市を訪れ、産業振興策について管外行政視察を行いました。

平成23年に産業振興条例を制定した丸亀市は、中小企業に対する支援策が充実。事業者のニーズに対応した支援が進められていました。ノリ養殖では岡山県一の玉野市。近年は磯焼けが課題となっており、その対策として、カキ殻を網目のケースに入れた人工小型漁礁を海底に沈め、藻場の再生に努めているとのことでした。



山口県周防大島町において視察

周防大島町と兵庫県相生市を訪れ、管外行政視察を行いました。

周防大島町では、周防大島高校との地域連携（コミュニティ・スクールなど）について視察しました。少子化に危機感を抱いており、町を挙げて進めている事業でした。

相生市では、子育て応援施策「11の鍵」について視察しました。定住促進の取り組みとして、民生部門や教育委員会部門にまたがる子育て支援を実施。総合的な事業運営管理は企画総務部で担当しており、効果的な施策展開がされていきました。

管外行政視察報告

各委員会は、所管事務における管外行政視察を行いました。

議会運営委員会

議会運営委員会（菅野広紀委員長、委員6人）は、1月27日から28日まで「市民に開かれた議会」をテーマに市民が議会に参画する機会をつくり、市政課題の解決や意見聴取を実践している先進地の愛知県犬山市と名古屋市を視察しました。

犬山市の「市民フリースピーチ」は、市民が議場において政策提言等を行う仕組みで、発言の取り扱いは、必ず議会で議論し、議論の結果を市民に報告していました。

名古屋市の「市民3分間議会演説制度」はアメリカ合衆国で市民が議会で発言できる制度を参考に導入したものです。犬山市との違いは、議事機関としての議会の役割が、市民意見を聴取するという「場」に限定されており、

政策に反映するのは議員の役割としていました。

市民が直接発言できる制度を設けていることは、市政及び議会への市民参加の手法として多くの示唆に富んだ視察となりました。



愛知県名古屋市において視察

総務常任委員会

総務常任委員会（中野貴徳委員長、委員6人）は、1月15日から17日まで、管外行政視察のため滋賀県東近江市、奈良県生駒市及び兵庫県神戸市を訪れました。今後の財政

振興局各センター所長等と情報交換

県沿岸広域振興局の大船渡各センター所長等との情報交換会は、1月21日に議場で行いました。

議員からは「今後も被災者の心のケアが必要では」と質問。県からは「地域主体による中長期的な支援が重要であり、今後も関係機関・団体との協働連携による包括的な支援体制づくりを推進する」との回答がありました。

このほか、三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルの活用については「情報発信及び受入体制整備により、教育旅行団体などの誘客を図る」とのことでした。

また、高校新卒者への就職支援については「ジョブカフェ気仙等を中心に地元定着に向けた就職相談会などを開いていく」、県道246号線（世田米矢作線）については「予算が厳しく早期整備が困難。今後も交通量の推移や予算の動向等を考慮し対応する」と説明を受けました。

三市議会議員交流

一関市、気仙沼市、本市の三市議会議員交流会は2月3日、キャピタルホテル1000で開催され、総勢70人が参加し、岩手・宮城県地域のごまごまな地域課題を理解し、連携しようとして交流しました。

はじめに、本市前教育長の金賢治氏が「生きる力」を育む教育」と題し講演。9年前の震災直後から、本市の児童・生徒らが困難な状況下の中でいろいろな体験を通じてたくましく成長できた様子を話しました。親・地域・学校関係者とも愛情を注ぐだけでなく、子どもにどうすれば目の前の課題を解決できるかを考えさせること、さらに知識・技能を実際の場面で活用し、応用することを目指してほしいと話しました。



金前教育長を講師に研修会